

スイッチOTC医薬品の候補となる成分の要望状況について（令和6年度要望）（2024年7月1日～2024年9月30日）

No.	成分名	要望する効能・効果	要望のあった成分に対応する医療用医薬品の情報				備考
			販売名	会社名	効能・効果	用法・用量	
1	オセルタミビルリン酸塩	市販薬のキットでインフルエンザ陽性、周りにインフルエンザの患者がいて自分も熱発したとき（みなし陽性）、インフルエンザの予防	タミフルカプセル75、タミフルドライシロップ3%	中外製薬株式会社	A型又はB型インフルエンザウイルス感染症及びその予防	○タミフルカプセル75 〈治療〉 通常、成人及び体重37.5kg以上の小児にはオセルタミビルとして1回75mgを1日2回、5日間経口投与する。 〈予防〉 成人 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日1回、7～10日間経口投与する。 体重37.5kg以上の小児 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日1回、10日間経口投与する。	
						○タミフルドライシロップ3% 〈治療〉 成人 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日2回、5日間、用時懸濁して経口投与する。 小児 通常、オセルタミビルとして以下の1回用量を1日2回、5日間、用時懸濁して経口投与する。ただし、1回最高用量はオセルタミビルとして75mgとする。 幼小児の場合：2mg/kg（ドライシロップ剤として66.7mg/kg） 新生児、乳児の場合：3mg/kg（ドライシロップ剤として100mg/kg） 〈予防〉 成人 通常、オセルタミビルとして1回75mgを1日1回、7～10日間、用時懸濁して経口投与する。 小児 通常、オセルタミビルとして以下の1回用量を1日1回、10日間、用時懸濁して経口投与する。ただし、1回最高用量はオセルタミビルとして75mgとする。 幼小児の場合：2mg/kg（ドライシロップ剤として66.7mg/kg）	
2	ラニナミビルオクタン酸エステル水和物	市販薬のキットでインフルエンザ陽性、周りにインフルエンザの患者がいて自分も熱発したとき（みなし陽性）、インフルエンザの予防	イナビル吸入粉末剤20mg	第一三共株式会社	A型又はB型インフルエンザウイルス感染症の治療及びその予防	治療 成人及び小児（10歳以上）：ラニナミビルオクタン酸エステルとして40mgを単回吸入投与する。 小児（10歳未満）：ラニナミビルオクタン酸エステルとして20mgを単回吸入投与する。 予防 成人及び小児（10歳以上）：ラニナミビルオクタン酸エステルとして40mgを単回吸入投与する。また、20mgを1日1回、2日間吸入投与することもできる。 小児（10歳未満）：ラニナミビルオクタン酸エステルとして20mgを単回吸入投与する。	

No.	成分名	要望する効能・効果	要望のあった成分に対応する医療用医薬品の情報				備考
			販売名	会社名	効能・効果	用法・用量	
3	ブデソニド・ホルモテロールフマル酸塩水和物	風邪のあとなかなか咳が収まらない(咳喘息)	シムビコートタービュヘイラ-30吸入、同60吸入	アストラゼネカ株式会社	気管支喘息<吸入ステロイド剤及び長時間作動型吸入 β_2 刺激剤の併用が必要な場合> 慢性閉塞性肺疾患<慢性気管支炎・肺気腫>の諸症状の緩解(吸入ステロイド剤及び長時間作動型吸入 β_2 刺激剤の併用が必要な場合>	<気管支喘息> 通常、成人には、維持療法として1回1吸入(ブデソニドとして160 μ g、ホルモテロールフマル酸塩水和物として4.5 μ g)を1日2回吸入投与する。なお、症状に応じて増減するが、維持療法としての1日の最高量は1回4吸入1日2回(合計8吸入:ブデソニドとして1280 μ g、ホルモテロールフマル酸塩水和物として36 μ g)までとする。 維持療法として1回1吸入あるいは2吸入を1日2回投与している患者は、発作発現時に本剤の頓用吸入を追加で行うことができる。本剤を維持療法に加えて頓用吸入する場合は、発作発現時に1吸入する。数分経過しても発作が持続する場合には、さらに追加で1吸入する。必要に応じてこれを繰り返すが、1回の発作発現につき、最大6吸入までとする。 維持療法と頓用吸入を合計した本剤の1日の最高量は、通常8吸入までとするが、一時的に1日合計12吸入(ブデソニドとして1920 μ g、ホルモテロールフマル酸塩水和物として54 μ g)まで増量可能である。 <慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫)の諸症状の緩解> 通常、成人には、1回2吸入(ブデソニドとして320 μ g、ホルモテロールフマル酸塩水和物として9 μ g)を1日2回吸入投与する。	
4	トコフェロールニコチン酸エステル	高齢者のしびれ	ユベラNカプセル100mg、同ソフトカプセル200mg	エーザイ株式会社	○下記に伴う随伴症状 高血圧症 ○高脂質血症 ○下記に伴う末梢循環障害 閉塞性動脈硬化症	カプセル100mg:トコフェロールニコチン酸エステルとして、通常成人1日300～600mgを3回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。 ソフトカプセル200mg:通常成人には、1日3カプセルを3回に分けて経口投与する。 なお、年齢、症状により適宜増減する。 なお、トコフェロールニコチン酸エステルとしての用法及び用量は、通常成人1日300～600mgを3回に分けて経口投与する。	
5	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽	高齢者のしびれ	ノイロトロピン錠4単位	日本臓器株式会社	带状疱疹後神経痛、腰痛症、頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、変形性関節症	通常、成人には1日4錠を朝夕2回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	
6	リマプロストアルファデスク	高齢者のしびれ	オパルモン錠5 μ g	小野薬品工業株式会社	閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善 後天性の腰部脊柱管狭窄症(SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者)に伴う自覚症状(下肢疼痛、下肢しびれ)および歩行能力の改善	<閉塞性血栓血管炎に伴う潰瘍、疼痛および冷感などの虚血性諸症状の改善> 通常成人に、リマプロストとして1日30 μ gを3回に分けて経口投与する。 <後天性の腰部脊柱管狭窄症(SLR試験正常で、両側性の間欠跛行を呈する患者)に伴う自覚症状(下肢疼痛、下肢しびれ)および歩行能力の改善> 通常成人に、リマプロストとして1日15 μ gを3回に分けて経口投与する。	

No.	成分名	要望する効能・効果	要望のあった成分に対応する医療用医薬品の情報				備考
			販売名	会社名	効能・効果	用法・用量	
7	フェブキソスタット	健康診断で尿酸高値を指摘された場合の尿酸値降下	フェブリク錠 10mg、同錠 20mg、同錠40mg	帝人ファーマ株式会社	痛風、高尿酸血症 がん化学療法に伴う高尿酸血症	＜痛風、高尿酸血症＞ 成人 通常、成人にはフェブキソスタットとして1日10mgより開始し、1日1回経口投与する。その後は血中尿酸値を確認しながら必要に応じて徐々に増量する。維持量は通常1日1回40mgで、患者の状態に応じて適宜増減するが、最大投与量は1日1回60mgとする。 小児 通常、小児には体重に応じてフェブキソスタットとして下記の投与量を1日1回経口投与する。 体重40kg未満：通常、1日5mgより開始し、1日1回経口投与する。その後は血中尿酸値を確認しながら必要に応じて徐々に増量する。維持量は通常1日1回20mgで、患者の状態に応じて適宜増減するが、最大投与量は1日1回30mgとする。 体重40kg以上：通常、1日10mgより開始し、1日1回経口投与する。その後は血中尿酸値を確認しながら必要に応じて徐々に増量する。維持量は通常1日1回40mgで、患者の状態に応じて適宜増減するが、最大投与量は1日1回60mgとする。 ＜がん化学療法に伴う高尿酸血症＞ 通常、成人にはフェブキソスタットとして60mgを1日1回経口投与する。	